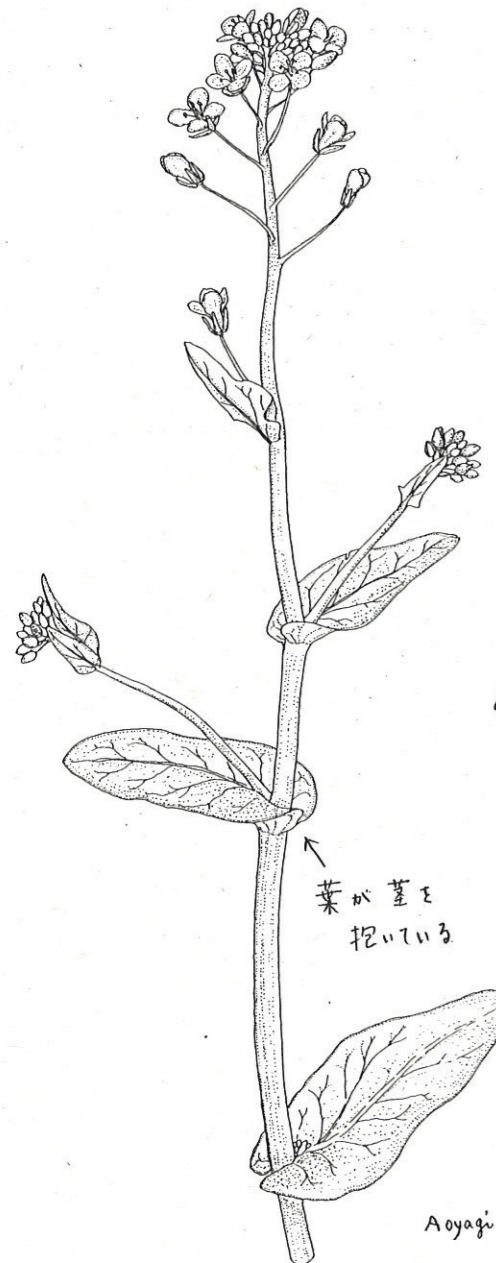


すっかんぽ

1994年4月号

菜の花 いろいろ



学校へ通う道路に沿って黄色い花が目立つ季節になった。両毛線の線路や、思川の川べりも鮮やかな黄色がまぶしい。私たちは、何げなく、「菜の花」と一言で片づけてしまうが、実は、菜の花にもいろいろあるのだ。

(その1) アブラナ〈油菜〉

・弥生時代に、中国から渡来した、帰化植物。いわば、日本の菜の花のオリジナル。しかし、今は、ほとんど見ることはできない。

(その2) セイヨウアブラナ〈西洋油菜〉

・明治初期に、ヨーロッパから移入された、帰化植物。種子からは、油がしぼられる。(菜種油) 今では、「菜の花」の代表選手。

セイヨウアブラナ
1994.4.10

Aoyagi

(その3) セイヨウカラシナ〈西洋芥子菜〉

遠くから見ると、セイヨウアブラナと区別がつかないが、近くでよく見ると、は、きりと区別できる。さて、そのポイントは、……。下のスケッチと見比べてほしい。

ところで、アブラナ(油菜)からは、油がとれるが、カラシナ(芥子菜)からとれるものは、何。

(その4) 切り花用菜の花(園芸品種)

・冬、まだ寒いころ、花屋で菜の花を見かけることがある。これも、れ、きとした、菜の花には、

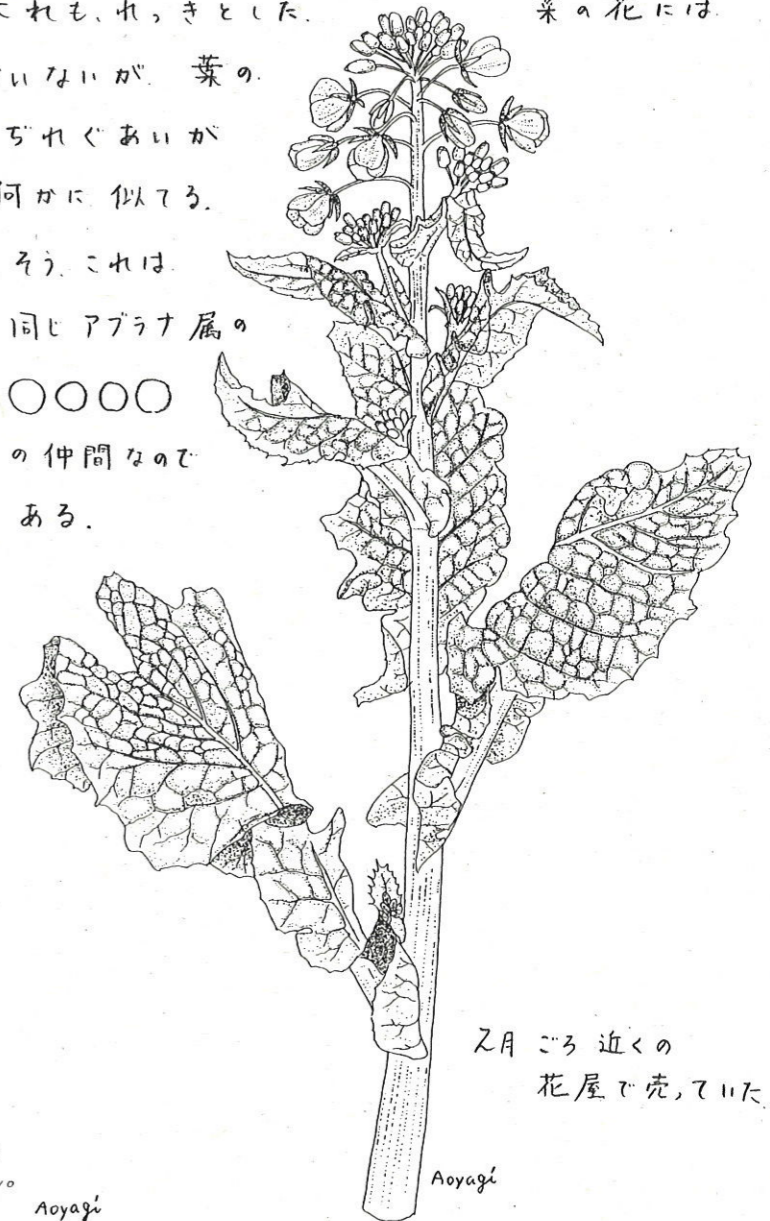
ちがいないが、葉のちぢれぐあいが何かに似てる。

そう、これは、同じアブラナ属の
○○○○
の仲間なのである。



セイヨウカラシナ
1994.4.10

Aoyagi



Aoyagi